

瀬戸内海の起源

瀬戸内海は本州、四国、九州の間にある水域です。単に内海と呼ばれることも多く、古くから貿易、旅、戦争で重要な役割を果たしてきた比較的穏やかな水路です。しかし、この海がどのように形成されたかを知るには、ずっと昔まで遡る必要があります。

およそ 300 万年前、日本最長の断層線である中央構造線に沿った地殻活動によって、現在の内海の南北に山脈が形成されました。海水がそれら山脈の間の平坦な地形の上を流れ、この地は地殻変動の影響を受け続けました。その後の 100 万年以上にわたる地面の隆起と火山の噴火で海の形は繰り返し変わり、さらには干上がり、最終的におよそ 120 万年前に現在の地形になりました。

その地質学的な基盤は古いものの、現在私たちが知る内海は比較的最近この形になりました。最も新しい氷河期の間、水は完全に涸れていましたが、およそ 7000 年前に地球の大気が再び暖まったときに、日本の太平洋岸の海面は最大 100 メートル上昇しました。内海には再び海水が満ち、その山岳地帯はおよそ 3,000 の島々からなる群島に変わりました。